

農作業事故の発生状況

調査対象期間

平成26年1月～12月

平成27年8月

広島県農林水産局農業経営発展課

利用にあたって

この農作業事故の発生状況は、次によって調査し取りまとめたものです。

1 調査の目的

農業の機械化の進展に伴い、農作業安全の確保が重要な課題となっているので、農作業事故の実態を把握し、今後の農作業安全対策の推進資料とするため、この調査を実施しました。

2 調査の対象

平成26年1月～平成26年12月の間に発生した農作業事故。

3 調査の方法等

(1) 農作業事故の定義

この調査で、農作業事故とは、すべての農作業中に発生した事故とする。

注1) 農作業とは、農業生産活動に伴う一切の作業をいい、農業生産資材の調達や運搬、農機具及び農業施設の修理、整備及び市場までの出荷に伴う作業（ライスセンター等での調製や選果等）を含む。

注2) 農業機械による事故とは、受傷者または死亡者自らが農業機械を運転操作中である場合に限らず、加害者がこの状態である場合のものも含む。

(2) 調査の対象

平成26年1月1日から平成26年12月31日までの間に発生した農作業事故により、仕事を1日以上休まなければならない程度の身体的障害を受けたものを対象とする。

(3) 調査内容

以下の調査票のとおりとする。

市町名	事故発生日時		月		日		時		分	
	年	齢	才	性別	男	女	男	女	男	女
外傷の種類	1 死亡	2 切断	3 骨折	4 切傷, 刺傷, 裂傷	5 脱臼捻挫					
	6 打撲傷	7 臓器等の内部損傷	8 挫滅傷	9 窒息	10 化学物質の有害作用					
	11 火傷	12 視力減退	13 聴力減退	14 筋・腱損傷	15 その他()					
農業機械の種類	16 トラクター	17 耕うん機	18 田植機	19 動力防除機	20 バインダー					
	21 コンバイン	22 ハーベスター	23 動力脱穀機	24 動力刈払機	25 農用運搬車					
	26 チェンソー	27 動力カッター	28 農業用自動車	29 その他()						
事故発生原因	30 機械の転落・転倒(ほ場内・道路から)	31 道路上での自動車との衝突	32 挟まれ							
	33 ひかれ	34 回転部への巻き込まれ	35 機械からの転落							
	36 機械の刃部の事故	37 その他()								
農業機械以外の事故	38 転落, 墜落	39 交通事故	40 稲わら焼却中の火傷	41 家畜による事故						
	42 農薬事故	43 蛇, 昆虫による事故	44 転倒	45 草焼き中の火傷						
	46 鳥獣害駆除関係事故(単独作業)	47 その他()								
備考										

(4) 調査実施方法

JA共済連広島県本部の協力を得て、傷害共済事故発生通知書または生命・傷害共済事故状況報告書を閲覧し、転記する。なお、傷害共済事故発生通知書又は生命・傷害共済事故状況報告書は、請求に対する処理年月日によって整理されているため、この処理年月日に基づいて、調査対象を以下のとおり限定する。

* 処理年月日が平成26年1月～平成27年1月の中から平成26年1月～平成26年12月に発生した事故分を抽出。

(5) 調査票への一部転記漏れにより年次別発生件数と各項目別の発生件数が一致しない場合がある。

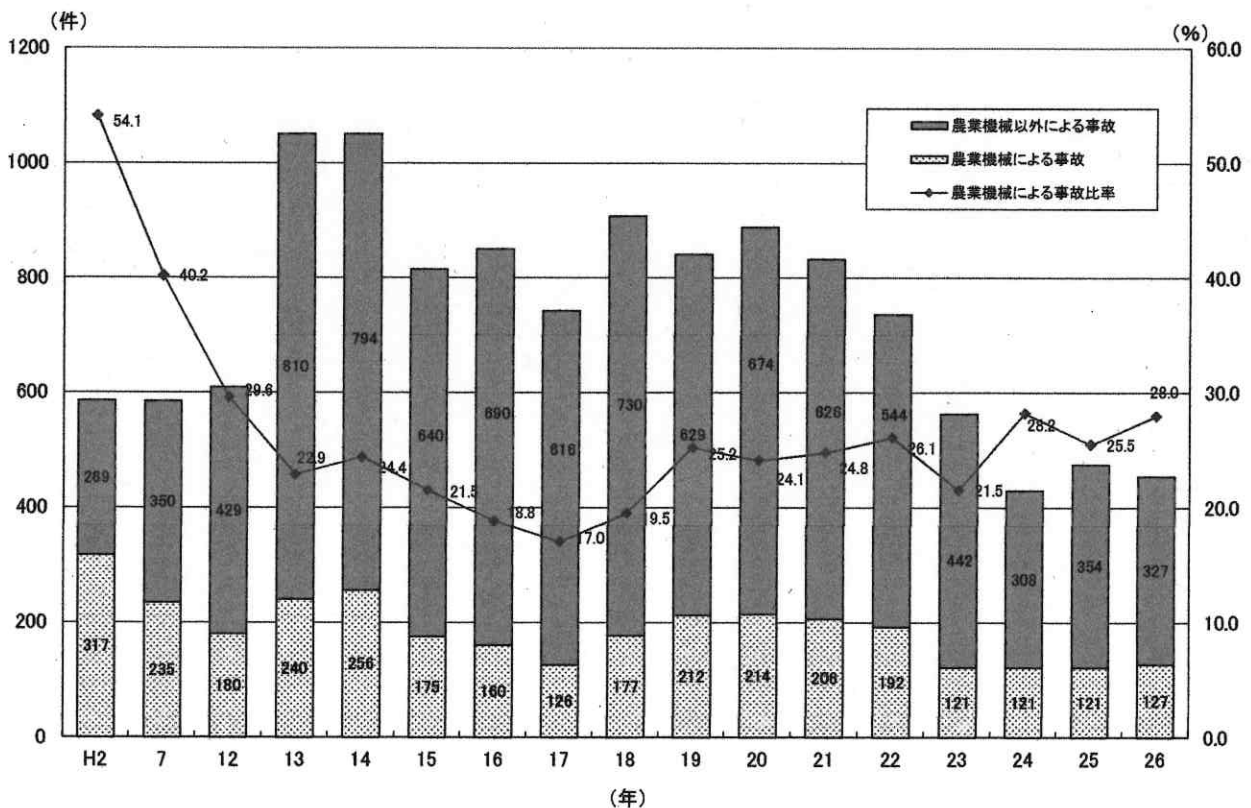
1 農作業事故の年次別発生状況

(1) 年次別発生件数

(単位:件)

年	平成	2	7	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
農業機械による事故		317	235	180	240	256	175	160	126	177	212	214	206	192
農業機械以外による事故		269	350	429	810	794	640	690	616	730	629	674	626	544
計		586	585	609	1,050	1,050	815	850	742	907	841	888	832	736

年	23	24	25	26
農業機械による事故	121	121	121	127
農業機械以外による事故	442	308	354	327
計	563	429	475	454



- 平成 26 年は 454 件(平成 25 年は 475 件)の農作業事故が発生しており、ピークの平成 13 年、14 年より 57%減少し、さらに昨年より 4%の減少となっている。
- 農業機械による事故は、平成 26 年は 127 件(平成 25 年は 121 件)発生しており、昨年とほぼ同数となっている、農作業事故総数の 28.0%(平成 25 年は 25.5%)を占め、平成 17 年以降やや増加の傾向にある。

(2) 月別発生件数

(単位:件)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
平成 2	37	28	42	40	67	65	67	59	69	76	23	13	586
7	29	33	46	49	71	56	59	71	74	56	22	18	584
12	32	25	36	52	67	58	66	71	72	55	43	32	609
13	53	62	70	117	132	111	136	112	126	74	35	22	1,050
14	73	83	81	124	106	110	115	121	113	74	35	15	1,050
15	45	36	50	88	107	83	76	118	109	62	29	12	815
16	51	34	66	84	109	80	95	90	102	72	52	15	850
17	28	34	34	86	113	103	77	97	79	53	29	9	742
18	62	44	70	96	107	104	101	111	102	61	30	19	907
19	68	63	62	91	111	90	96	82	79	65	23	11	841
20	55	51	85	74	116	88	103	114	104	46	33	19	888
21	45	46	71	65	95	88	83	115	100	63	39	22	832
22	48	29	38	75	89	80	91	80	86	68	41	11	736
23	27	27	42	64	77	59	76	72	58	45	14	2	563
24	28	18	37	60	84	35	53	48	31	25	10	0	429
25	28	20	33	50	61	53	58	46	64	37	23	2	475
26	35	11	32	43	72	59	49	45	49	36	15	8	454

月別では、平成 26 年は 5 月に 72 件(16%)、次いで 6 月に 59 件(13%)7 月、9 月に 49 件(11%) 発生している。例年、4 月から 9 月にかけて多く発生しており、平成 26 年も同様の傾向がみられる。

(3) 年齢別事故発生件数

(単位:件, %)

年\年齢	10 歳以下	11~20	21~30	31~40	41~50	51~60	61~70	71 歳以上	計	61 歳以上比率
平成 2	1	0	5	22	55	167	336		586	57.3
7	0	1	5	15	37	112	412		582	70.8
12	0	2	4	9	26	81	487		609	80.0
13	0	4	6	22	47	131	389	447	1,046	79.9
14	2	9	13	13	39	126	376	471	1,049	80.7
15	0	5	9	13	25	100	282	381	815	81.3
16	1	0	9	8	38	97	312	385	850	82.0
17	0	1	8	10	18	91	239	375	742	82.7
18	0	2	8	10	30	118	277	462	907	81.4
19	2	5	8	5	34	97	249	441	841	82.0
20	0	3	10	16	19	96	236	508	888	83.8
21	0	3	6	14	21	84	213	491	832	84.6
22	0	4	2	6	17	70	201	436	736	86.5
23	0	0	8	7	13	47	145	343	563	86.7
24	0	0	2	7	14	37	123	246	429	86.0
25	0	0	7	8	9	40	122	286	472	86.4
26	0	0	3	1	10	35	117	270	436	88.8

○ 年齢層別では、平成 26 年は 71 歳以上、61~70 歳、51~60 歳の順に発生が多く、平成 13 年以降同じ状況である。

また、61 歳以上の高齢者が事故全体の 80%以上を占める状態が続いている。

(4) 機種別事故発生件数

(単位:件)

機種 年	トラクター	耕うん機	田植機	コンバイン・ バインダー	ハーベスター脱穀機	動力刈払機	農用運搬車	その他	計
平成 2	19	28		39	14	63	39	115	317
7	17	24		30	8	47	31	78	235
12	14	20	1	18	5	52	22	48	180
13	23	19	7	21	2	69	33	66	240
14	22	27	13	16	1	69	27	81	256
15	21	16	3	23	5	40	17	50	175
16	19	26	6	15	1	34	27	32	160
17	17	19	0	10	6	29	7	38	126
18	18	20	3	9	2	50	13	62	177
19	23	14	4	15	2	50	17	87	212
20	31	21	8	11	10	40	17	76	214
21	12	30	3	13	5	51	16	76	206
22	12	15	6	8	4	56	16	75	192
23	9	14	4	17	2	33	8	34	121
24	16	11	4	7	2	28	19	34	121
25	11	14	2	13	0	35	5	41	121
26	18	10	4	10	0	32	4	47	125

○ 機種別では、以前から動力刈払機による事故が最も多く(平成 26 年 26%)、2位以下は、年により差はあるが、トラクター、耕うん機、コンバイン・バインダーによる事故が多い。

○ 「その他」は、農業用自動車、管理機などである。

(5) 傷害の種類別事故発生件数

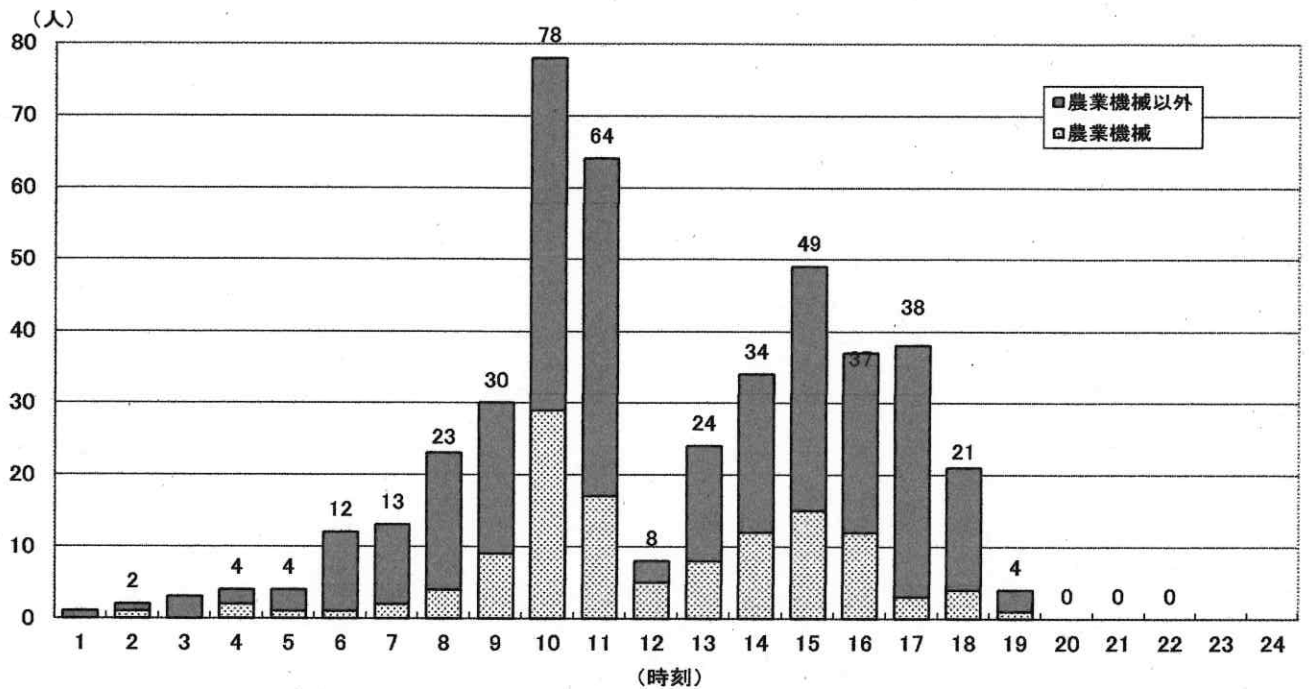
(単位:件, %)

種類 年	死亡	切断	骨折	切傷・刺傷・裂傷	脱臼 捻挫	打撲傷	その他	計	重大事故 比率
平成 2	8	20	112	228	64	120	34	586	23.9
7	8	10	119	219	35	110	84	585	23.4
12	4	14	135	209	22	132	93	609	25.1
13	9	13	265	426	57	138	142	1,050	27.3
14	8	14	276	442	70	122	118	1,050	28.4
15	9	17	240	265	60	83	141	815	32.6
16	12	13	230	276	54	103	162	850	30.0
17	11	10	211	251	52	81	126	742	31.3
18	3	11	262	343	56	107	125	907	30.4
19	9	5	229	369	74	92	63	841	28.9
20	7	10	265	290	73	119	124	888	31.8
21	7	6	282	192	49	101	195	832	35.5
22	2	7	256	166	50	101	154	736	36.0
23	8	7	172	159	34	58	125	563	33.2
24	5	3	129	114	24	56	98	429	31.9
25	9	4	164	137	18	68	75	475	37.3
26	5	0	147	151	29	71	47	450	33.6

- 傷害の種類別では、切傷・刺傷・裂傷、骨折、打撲傷の3種が多い。
- 重大事故(死亡・切断・骨折)の割合は、全体の1/3程度で推移している。
- 「その他」は、挫減傷、火傷、筋・腱損傷などである。

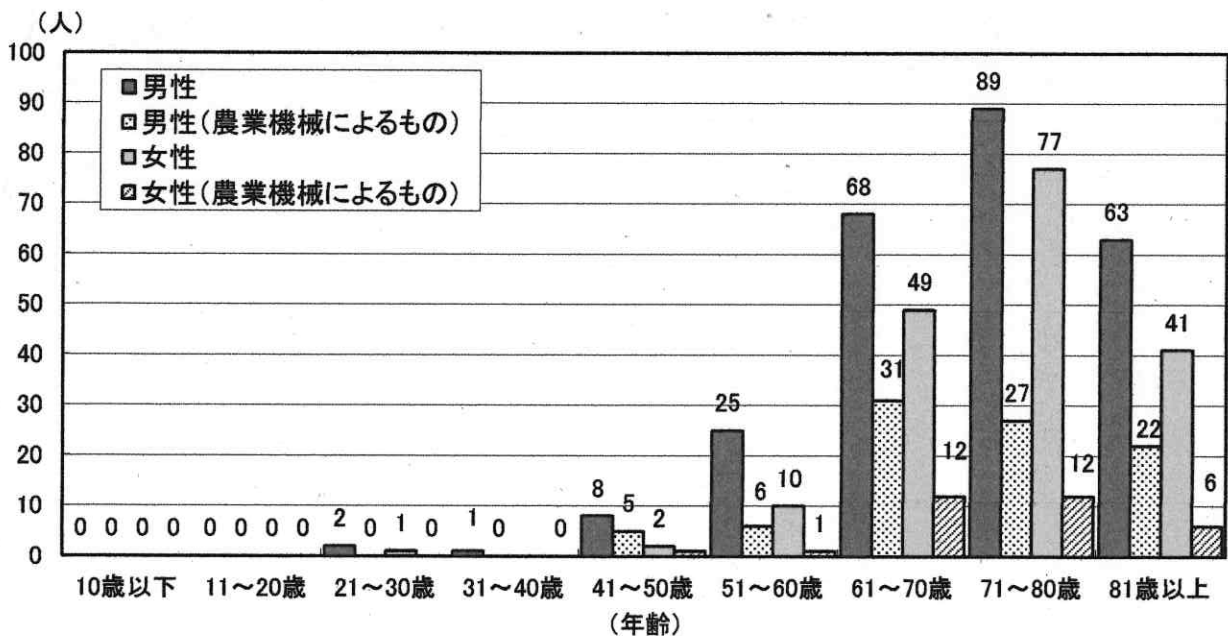
2 平成 26 年農作業事故の発生状況

(1) 時刻別事故発生状況



○ 10時～11時及び15時(農作業開始後2時間頃)での事故の発生が多い。

(2) 年齢別・男女別事故発生状況等

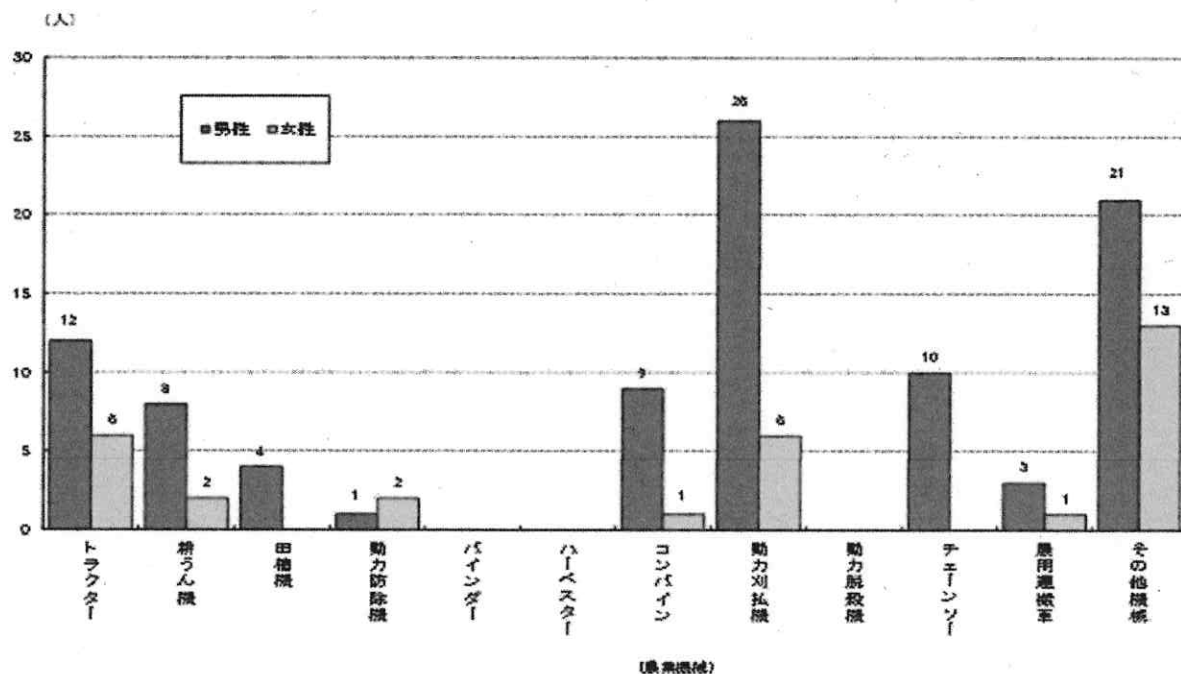


○ 事故の年齢別発生件数は男女ともに61歳以上で多く、71～80歳が最も多い。

○ 農作業事故に占める農業機械による事故の発生比率は41～50歳(60%)、次いで61～70歳(37%)が多い。

(3) 主要機械種別事故発生状況

① 男女別事故発生件数



○ 主要農業機械による事故の発生件数は、動力刈払機 32 件、トラクター 18 件、耕うん機、コンバイン、チェーンソー 10 件の順に多く、男女別では、男性が動力刈払機、トラクター、チェーンソーの順に、女性が動力刈払機及びトラクター、耕うん機及び動力防除機の順に多い。

② 事故種別発生件数

(単位:件)

区分	農業機械によるもの												農業機械以外	合計	
	トラクター	耕うん機	田植機	動力防除機	バインダー	ハーベスター	コンバイン	動力刈払機	動力脱穀機	チェーンソー	農用運搬車	その他機械			計
死亡	1												1	4	5
切断															0
骨折	6	3	2	3			2	7		3		14	40	106	146
切傷・刺傷・裂傷	3	4	1				4	19		5	1	12	49	101	150
挫滅傷	4										1	1	6	9	15
その他	4	3	1				3	5		2	2	7	27	107	134
計	18	10	4	3	0	0	9	31	0	10	4	34	123	327	450

※挫滅傷(摩擦や急激な圧力による真皮や皮下組織以下のレベルまでの損傷)

- 農業機械による事故、農業機械以外による事故共に骨折及び切傷・刺傷・裂傷の件数が多い。
- 重大事故(死亡、切断、骨折)の割合は、農業機械によるもの 33.3%、農業機械以外によるもの 33.6%となっており、必ずしも農業機械による事故が重大事故につながる結果とはなっていない。
- 農業機械以外の死亡原因は、すべて転落である。

(4) 農業機械以外による事故発生件数

(単位:件)

墜・転落	交通事故	火傷	家畜	農業事故	蛇・昆虫	転倒	鳥獣害駆除 関係事故 (単独作業)	その他	計
72	1	3	10	0	36	117	14	74	327

○ 農業機械以外による事故の発生要因としては、転倒が 117 件、次いで墜・転落が 72 件と多く、合わせて 189 件となり、57.8%を占めている。

転倒事故における年齢別・男女別発生件数

(単位:件, %)

区分	10歳 以下	11~ 20歳	21~ 30歳	31~ 40歳	41~ 50歳	51~ 60歳	61~ 70歳	71~ 80歳	81歳 以上	計
男性	0	0	0	0	0	1	11	20	19	51
女性	0	0	0	0	0	3	13	27	17	60
計	0	0	0	0	0	4	24	47	36	111
年齢別発生比率(%)	0	0	0	0	0	3.6	21.6	42.3	32.4	

○ 「転倒」による事故は、71歳以上が 74.8%を占めている。

○ 「転倒」の発生場面は、草刈作業、農作業従事のための往路又は復路、収穫物や農機具等の運搬及び移動又は作業に関連した移動の際、田畑からの出入りの際で多く発生している。